

# P T A 活動 地域住民が協力

三島市立沢地小ではPTAの派生組織「粋なおやじの会」がさまざまな行事を行っている。市内の近隣校に同様の会があったことなどから2014年度に現役保護者のグループとして発足。わが子が卒業した保護者OBも引き続き参加するようになり、現在は会員40人の約半数を占める。

地区の恒例行事だった1月のどんと焼きを復活させ、6月には不要なおもちゃを持ち寄り「カエルキャラバン」も実施する。夏休み中の防災体験合宿は児童約100人が参加する人気イベント。学校に1泊して料理したり体育館に段ボールを敷いて寝たりして、避難所生活を具体的にイメージしてもらったのが狙いだ。

過去にも代表を務めた吉岡武志さん(48)は、新型コロナウイルス禍で自粛となった各種行事の復活を託されて再登板した。わが子は既に中高生だが、かつての行事のにぎわいを振り返り「児童の期待にまた応えたい」と使命感を口にする。派生組織ゆえ、任期や定員に縛られず活動の自由度が高い点も利点という。やりたい

## 三島沢地小

## 自由度高い派生組織

## 磐田豊岡南小

## 中庭再生に参加募る



10年間の歩みを振り返る「粋なおやじの会」の会員  
=10月、三島市立沢地小



中庭再生に取り組み、晴れやかな表情の参加者  
=9月、磐田市立豊岡南小(同小PTA提供)

人ができる時に動く。子どもも大人も楽しいことをやる。助け合いと楽しさを重視した活動は今年で10周年。「今後とも仲間を増やしたい」とほほ笑む。

磐田市立豊岡南小PTAは、住民の協力を得て中庭再生プロジェクトに取り組んでいる。約50年前に整備された中庭は、富士山や南アルプスから河川が流れて駿河湾に注ぐ本県の地形を、植栽や池で再現していた一角。児童が集う同校のシンボルだったが、いつしか土砂で埋もれ、生き物も姿を消した。

心を痛めたPTAが昨年度、再生を始めた。広さ約400平方メートルの中庭で土砂を撤去し、市内サッカー場から芝生メンテナンス時の廃土を譲

り受けて再生芝生の敷設を進める。

完成は創立150周年となる来年度を予定。地域全体に祝福ムードを広げ、新型コロナウイルス禍で薄れた地域のつながり再構築のきっかけにしようとして今夏初めて、回覧板で地域住民に協力を募った。その結果、今年9月の活動にはPTA会員以外に、近隣から50〜80代の10数人が参加した。

PTAの秋山玉光会長(47)は住民に謝意を示し「少子化で保護者数が減り、地域との関係がより大事になっている」と指摘。同時に保護者が地域活動に積極的に参加する必要性も語る。この活動がきっかけとなり、住民主催のラジオイベントに児童が参加するなど、新たな地域のつながりも生まれたという。

(教育文化部・鈴木美晴)